

起こりうる被害の様相

発災

発災時に起こりうる想定シナリオ

- ▼突然の強い揺れに襲われ、耐震改修をしていなかった自宅は大きくきしみ、立っていることができない



【出典】(一財)消防科学総合センター

- ▼揺れにより突然大きな音がして家具が倒れ、窓ガラス等が割れる
- ▼転倒した本棚の隙間から子供が泣き叫ぶ声が聞こえる
- ▼自力で脱出できない子供を、隙間からなんとか引っ張り出し助け出す



▼自宅の外に出ると、周辺の古い家屋が多数倒壊しており、倒れた家屋の中から助けを求める声が聞こえるが、一人ではなかなか救出できない



【出典】(一財)消防科学総合センター

▼倒壊した家屋の一部から火の手が上がる
▼近くの住民が必死の形相で火を消し止めようとしているが、自分は何をすればいいのかわからず、ただ茫然と見ていることしかできない



▼先ほどの火の手は消し止められたようだが、別の場所から延焼する炎が見え、身を守るために避難場所へ移動する



▼その後、防災行政無線等により、避難所開設の放送が流れる
▼自宅が気になり、確認と食料等確保のため自宅に戻るが家屋が滅失しており、避難所に身を寄せることを決断する



【出典】(一財)消防科学総合センター

- ▼避難所に到着したが、避難所となる校舎は倒壊しておらず一安心する
- ▼避難所は建物倒壊や延焼火災により家を失った住民であふれている
- ▼何とか家族の安否がメールで確認できた
- ▼のどが渴いたので水飲み場に行くが、水が出ない
- ▼トイレに行こうとしたら、長蛇の列ができています
- ▼避難所のスペースも狭く、床が冷たく寒くて眠れない



【出典】(一財)消防科学総合センター

- ▼避難所での食事は三食ともアルファ化米や乾パンと水だった。それも避難者の数が多いため不足しがちであるが、発災に伴う混乱で、いつ応援物資が届くのか不明であると聞かされる



- ▼夜が明けて、近くの病院に搬送された家族の様子を見に行く
- ▼病院にはひっきりなしに負傷者が運ばれてきており、大混乱をきたしている
- ▼避難所に戻る道で、遠くを見渡すと延焼火災が続いている場所もあり、自衛隊員、警察官及び消防隊員が倒壊建物等からの負傷者の救出救助活動を行っているが、手が足りていない状況が見て取れた



【出典】(一財)消防科学総合センター

四日以降

- ▼食料配給時、避難者以外にも多くの人が食料を求めてくるようになってきた
- ▼避難所の備蓄物資が不足しているが、なかなか物資が届かない様子で、避難所管理者と避難者との間でたびたびトラブルが発生しているようだ



- ▼数日後、徐々に上下水道等ライフラインの復旧が進み、避難所一帯に電気も供給されるようになった
- ▼行政からの支援を受けるには、被災証明が必要とのことだが、発行まで相当程度時間がかかると言われ落胆する
- ▼避難生活に疲れ、親類を頼って東京近郊に滞在しているが、早く自立した生活をしたいと考えている



【出典】(一財)消防科学総合センター